

ソウハチというカレイ

令和4年5月27日

福島県水産海洋研究センター 海洋漁業部



図1 ソウハチ



図2 裏側から見える目

ソウハチ (*Hippoglossoides pinetorum*) は、福島県では「カラス」「カラスガレイ」と呼ばれ¹⁾、主に北海道全沿岸、青森県～対馬海峡の日本海沿岸、青森県～福島県の太平洋沿岸の水深100～200mに生息するとされています²⁾。特に日本海の山陰地方の底びき網漁業においては重要な漁業対象種とされており、資源評価の対象となっています。なお、福島県所属の調査指導船「いわき丸」の着底トロール調査では水深100～500mの幅広い水深で採集されています。

平成30年～令和2年の水揚げ量は0.7～13トンであり、令和3年の水揚げ量は33トンでした。また、福島県では、3-5月の春期に年間水揚げ量のおよそ8割が水揚げされます。一方で、県内産地市場では平均単価が概ね100円/kg以下で取り扱いされています(図3)。

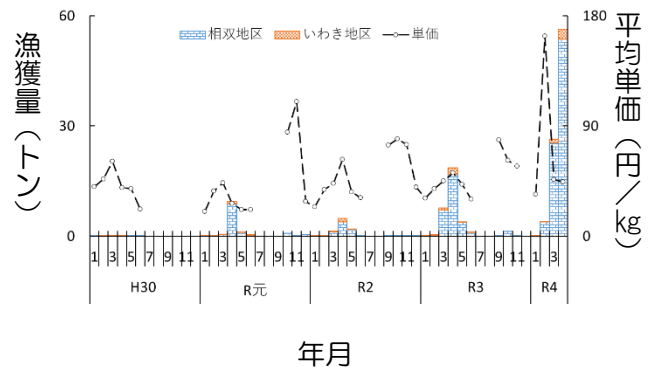


図3 漁獲量(平成30～令和4年4月、速報値)

ソウハチは他のカレイ類には見られない形態的特徴を持ち、片側の目が表側と裏側の間にあるため、裏側からも目を見ることができます。

カレイ類は海底にじっとしているイメージが強いですが、ソウハチは群れで遊泳することがあると言われており、中層を遊泳する際に下方の餌や天敵を探知するためにこの特徴を活用している可能性があります。

ソウハチは独特の風味を持っており、好みが分かれる魚のようです。主に干物等に加工されますが、鮮度のよいものであれば刺身でも食べることもできるようです。

【引用文献】

- 1) 福島県水産試験場,1980. 福島の海産魚類方言集 p.30
- 2) 中坊徹次,2013. 日本産魚類検索 全種の同定第三版 I. p.1679